

ソ連共産党中央委員会政治局チェルノブイリ原発事故対策特別作業班会議

1986年6月2日

出席者：

ソ連共産党中央委員会政治局員

同志 ルィシコフ N. I.

リガチョフ E. K.

ヴォロトニコフ V. I.

チェブリコフ V. M.

ソ連共産党中央委員会政治局員候補

同志 ドルギフ V. I.

ソコロフ S. L.

ソ連内務相

同志 ヴラソフ A. V.

会議招致出席者：

ソ連閣僚会議第1副議長 [第1副首相]

同志 ムラホフスキー V. S.

ソ連閣僚会議副議長 [副首相]

同志 バタリン Yu. P.

シチェルビナ B. E.

ソ連科学アカデミー総裁

同志 アレクサンドロフ A. P.

ソ連電力エネルギー相

同志 マイオレツ A. I.

国防省第1次官

同志 アフロメエフ S. F.

国家水文気象委員会委員長

同志 イズラエリ Yu. A.

中規模機械製作省第1次官

同志 メシコフ A. G.

ソ連外務省第1次官

同志 コヴァレフ A. G.

ソ連保健省第1次官

同志 シチェーピン O. P.

I. V. クルチャトフ記念

原子力エネルギー研究所副所長、アカデミー会員

同志 レガソフ V. A.

ソ連共産党中央委員会重工業・

エネルギー産業部次長

同志 フロルィシエフ V. M.

< 訳注：1から7の途中まで欠落 >

チェルノブイリ原発第3号炉構造物及びシステムの状況調査、並びに提言を用意すること（委員会の構成に関する提言を添付）。

8. 現在稼働中の原子力発電所の安全性に関する諸問題について

この問題に関するマイオレツ、メシコフ両同志の報告を当特別作業班の次回定例会議で聴聞する。

9. チェルノブイリ原発事故による被災市民の医療について

入院による検査及び治療を受けている患者数は、3669名とのシチェーピン同志の報告を了解。

うち、放射線障害の診断を受けている者は、171名。1986年6月2日現在、死者数は24名となる（それ以外に、事故発生直後の段階で2名が死亡）。重体患者は、23名。

10．チェルノブイリ地区において、雲に対する作用を施すため利用される気象実験調査航空機の飛行を一時的に中止するようとの、ウクライナ共和国閣僚会議の要望について

各具体的ケースにおいてこの問題に関する決定をとるよう、イズラエリ同志に委任。

11．ソビエト連邦国内諸居住地の放射線レベルに関する外国の専門家からのデータ照会について

それらの照会について検討し、それぞれに見合った決定を下すよう、イズラエリ同志に委任。

12．ベルギー及びソ英合弁企業からの、チェルノブイリ原発支援基金に対する資金提供の申し入れについて

これらの企業の経営陣に謝意を表した上、その提供資金をもとに医薬品及び医療機材の調達する可能性について、これら企業側と合意を結ぶための方策をとるよう、アリストフ同志に委任。

13．ハンガリー社会主義労働党中央委員会との合意に基づく、ハンガリー人民共和国工業省によるソビエト市民の保養招待について

全ソ労働組合中央評議会（シャラエフ同志）に対し、ソ連電力エネルギー省及びウクライナ共産党キエフ州委員会と共に、1986年7月から8月の期間にチェルノブイリ原発の労働者400 - 500名を保養のためハンガリーに受け入れるとの、ハンガリー人民共和国工業省の申し入れを検討するよう委任。

ハンガリーの専門家らをチェルノブイリ原発事故の処理作業に参加させるとの、ハンガリー工業省の申し入れを受け入れることは妥当ではないと判断。

耐水堰（土塁壁）の構築用にハンガリー製機材を用いる可能性に関する問題を解決するよう、ソ連電力エネルギー省（マイオレッツ同志）に委任。

N．ルィシコフ

ソ連閣僚会議総務局総務課 2 印